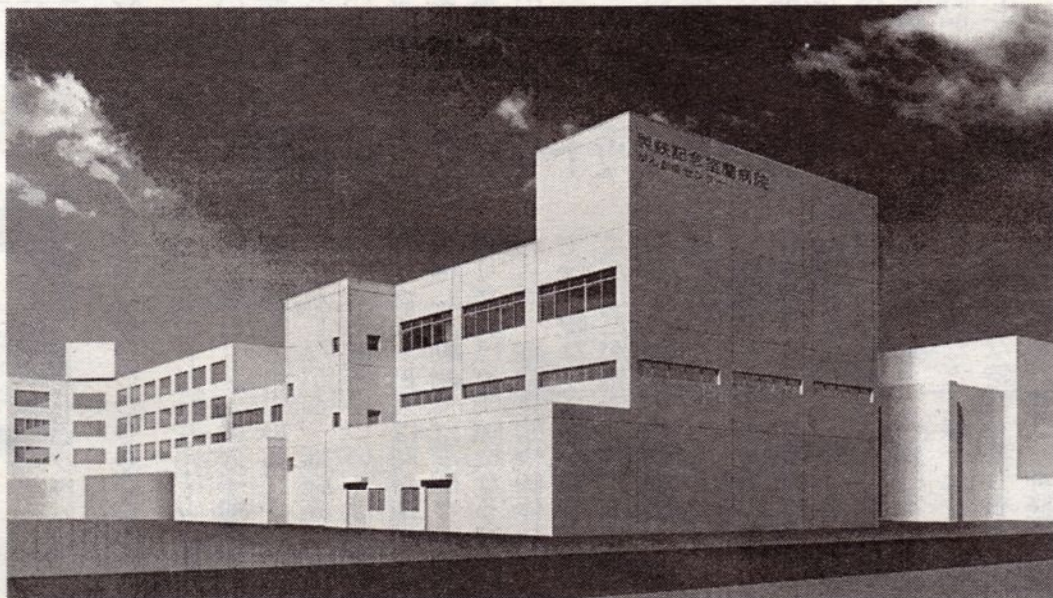


# リニアック、PET-CTなど装備

## がん診療センター 26年6月オープンへ

製鉄記念室蘭



がん診療センターの完成予想図

室蘭市の製鉄記念室蘭病院（足永武理事長、松木高雪病院長・三百四十七床）は、増加するがん患者への総合的な診療体制を充実させるため、リニアックやPET-CTなどを備えた「がん診療センター」を新設、外来化学療法センターも移転拡充する。今春、センターの建設に着手、二十六年六月のオープンを目指す。

同病院には、がん治療認定医が西胆振圏最多の八人在籍。入院患者数は胃がんで圏内の約四五%、肺がんで約三五%を占めるなど、症例数が豊富なうえ、社会医療法人化によって経営基盤が強化、北大の協力で放射線治療医確保のめども立ったことから、西胆振のがん治療拠点を目指して

整備を図る。

建設場所は中央診療棟南側で、建物はRC造四階建て延べ約二千五百三十平方メートル。一階は放射線治療室、PET-CT検査室、RI検査室、二階は外来化学療法センターで、ベッドを十床から二十床に拡充。軽食喫茶コーナーも設ける。三階に市民講座等を開ける大講堂、防災備蓄品倉庫、四階に機械設備室、受水

槽室、RIフィルター室を備える。

センター内にはがん患者向けサロンや相談室も整備。院内ではがん化学療法看護や緩和ケアの認定看護師も在籍しており、ハード、ソフト両面から、チーム医療でがん患者、家族を幅広く支えていく体制を整える。